

(仮訳)

プレス・リリース

2026 年 5 月 20 日

バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、情報通信技術（以下「ICT」）リスク管理に関する報告書の公表に合意し、暗号資産に関する的を絞ったレビューを進展させ、流動性リスク諸原則の的を絞った改訂を検討。

- ICT リスク管理に関する実務集の公表に合意。
- 銀行の暗号資産エクスポージャーに係る健全性基準の的を絞ったレビューを進展。
- 流動性リスクに関する諸原則の的を絞った改訂を検討。

バーゼル委は、2026 年 5 月 19-20 日にスイス・バーゼルで会合を開催し、様々な取組みについて議論した。

金融安定の見通し

バーゼル委メンバーは、最近の市場動向及びグローバルな銀行システムの見通しについて意見交換を行った。

中東における紛争を含む緊張の高まりにより、経済見通しに関する不確実性が高まっている。メンバーは、グローバルな銀行システムは、強固な資本及び流動性に支えられ、引き続き強靱性を維持していることを確認した。一方で、インフレ圧力、サプライチェーンの混乱、特定セクター（例えばエネルギーや農業）への影響といった潜在的な二次的・三次的な波及効果が、この強靱性を試す可能性があることから、銀行及び監督当局による継続的な警戒を要することを強調した。

メンバーは、プライベート・クレジットを含むノンバンク金融仲介の動向についても議論した。銀行のプライベート・クレジットへの直接的なエクスポージャーは全体として抑制的とみられるものの、間接的なエクスポージャー及び相互連関性は注視すべき論点であることが強調された。こうした状況を踏まえ、メンバーは、監督当局による一層の精査及びクロスボーダーでの情報共有の継続の重要性を強調し、金融安定理事会によるデータ収集の改善に関する作業を歓迎した。

さらに、メンバーは、人工知能（AI）モデルの最近の動向と銀行のサイバーセキ

セキュリティへの影響についても確認した。フロンティア AI モデルは銀行及び監督当局によるサイバー脆弱性の特定や防御の強化に有用となり得る一方で、悪用された場合には、サイバーインシデントの速度及び規模を大きく変化させる可能性がある。バーゼル委は引き続き動向を注視し、監督上の知見の共有を行う。

デジタル化

バーゼル委は、悪意のない ICT インシデントへの対応に関し、各法域の ICT リスク管理の実務を整理した報告書を承認した。ICT はオペレーショナル・リスク管理の重要な構成要素であり、オペレーショナル・レジリエンスの確保というより大きい目的の達成のために重要な役割を果たしている。技術環境の変化やデジタル化が進む中で、ICT インシデントに対する銀行のオペレーショナル・レジリエンスはますます重要になっている。当該報告書は来月公表される予定である。

また、バーゼル委は、機械可読性の高い形式での第 3 の柱の開示に関する[市中協議](#)に寄せられたフィードバックについて議論した。本作業の最終化に関するアップデートは今年中に提示される予定である。

暗号資産

[以前に公表](#)したとおり、バーゼル委は、銀行の暗号資産エクスポージャーに係る健全性[基準](#)的を絞った要素のレビューを迅速に進めている。バーゼル委は当該レビューの進捗を確認した。今年中にアップデートが提示される予定である。

流動性

バーゼル委は、これまでの流動性リスクに関する分析[作業](#)に基づき、[健全な流動性リスク管理及びその監督のための諸原則](#)について、的を絞った改訂が必要かどうかを検討することに合意した。当該諸原則は 2008 年 9 月に公表されたものである。その後、規制面、監督面及び構造面において様々な進展がみられており、当該諸原則が引き続きその目的に照らして適切であるかをレビューすることが求められている。本作業に関するアップデートは今年中に提示される予定である。

マクロプルーデンス政策

バーゼル委は、グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIB）の枠組みに関連して、一部の銀行によるウィンドウ・ドレッシング行動に対応するための[作業](#)の進捗を確認した。また、バーゼル委は、中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ

(GHOS) から示された[方向性](#)を踏まえ、かつ、バーゼル委による G-SIB の評価手法の定期的な[見直し](#)の一環として、ガバナンス及び透明性の向上を図る観点から、欧州銀行同盟域内の国境を越えたエクスポージャーの[取扱い](#)を G-SIB 枠組みに組み込むことの是非について、今年中に市中協議を実施することに合意した。いずれの取組みについても、今年中にアップデートが提示される予定である。

極端な気象事象が及ぼす金融リスク

GHOS から示された[方向性](#)を踏まえ、バーゼル委は、極端な気象事象が銀行に及ぼす金融面での影響に関するさらなる分析作業を進めるための作業計画を承認した。当該分析作業には、銀行による極端な気象事象に伴う物理的リスクの評価・管理のあり方や、こうした事象が銀行及び金融システム全体に及ぼす影響を緩和する上での保険の役割が含まれる。